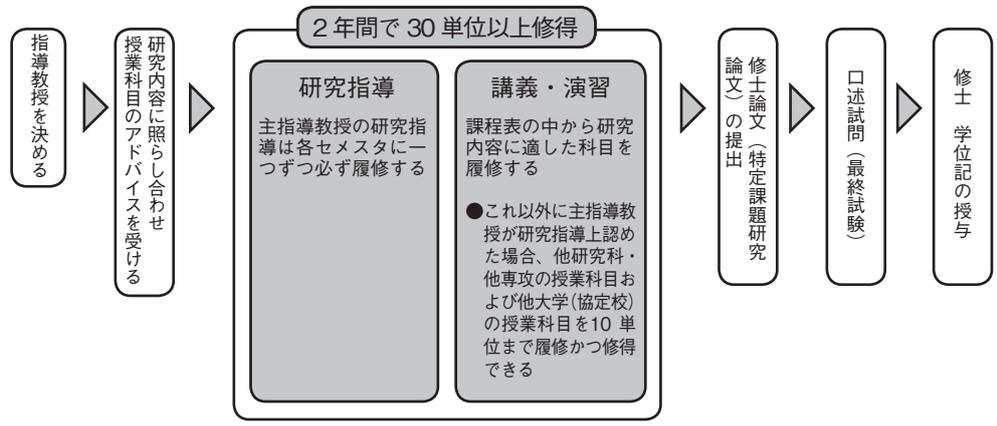


# [国際地域学研究科]

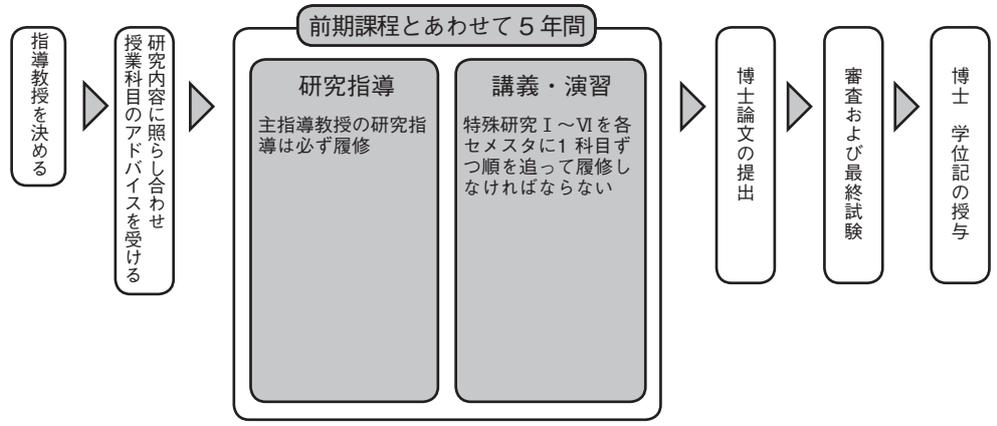
## 国際地域学専攻

前期課程 履修の流れ



特定課題研究論文を修士学位論文に代える場合は2年間で32単位以上修得

後期課程 履修の流れ



## 国際地域学専攻

### 博士前期課程

授業科目・研究指導 Elective Subject/Required Subject	講義・演習の別	単位	開講状態			職名	担当教員	備考
			昼間	夜間				
			日本語	Eng.	日本語			
都市・社会基盤計画特論 Advanced Theory of Urban Infrastructure Development and Management	講義	2	秋			教授	岡村敏之 Toshiyuki Okamura	
都市・社会基盤計画演習 Seminar on Urban Infrastructure Development and Management	演習	2		春	春	教授	岡村敏之 Toshiyuki Okamura	
エネルギー資源管理特論 Advanced Theory of Energy and Resources Management	講義	2						本年度休講
エネルギー資源管理演習 Seminar on Energy and Resources Management	演習	2						本年度休講
国際都市環境特論 Advanced Theory of Urban Environmental Planning	講義	2	秋		秋	教授	荒巻俊也 Toshiya Aramaki	
国際都市環境演習 Seminar on Urban Environmental Planning	演習	2		春		教授	荒巻俊也 Toshiya Aramaki	
科学技術政策特論 Advanced Theory of Science and Technology Policy	講義	2						本年度休講
科学技術政策演習 Seminar on Science and Technology Policy	演習	2						本年度休講
居住環境計画特論 Advanced Theory of Human Settlement Planning	講義	2	春	秋		教授	藤井敏信 Toshinobu Fujii	
居住環境計画演習 Seminar on Human Settlement Planning	演習	2			春	教授	藤井敏信 Toshinobu Fujii	
国際環境衛生特論 Advanced Theory of Environmental Sanitation	講義	2	春			教授	北脇秀敏 Hidetoshi Kitawaki	
国際環境衛生演習 Seminar on Environmental Sanitation	演習	2		秋	休講	教授	北脇秀敏 Hidetoshi Kitawaki	
開発経済学特論 Advanced Theory of Development Economics	講義	2		春		教授	坂元浩一 Koichi Sakamoto	
開発経済学演習 Seminar on Development Economics	演習	2	秋		休講	教授	坂元浩一 Koichi Sakamoto	
公共経済学特論 Advanced Theory of Public Economics	講義	2	春		春	准教授	志摩憲寿 Norihiisa Shima	
公共経済学演習 Seminar on Public Economics	演習	2		秋		准教授	志摩憲寿 Norihiisa Shima	
都市地理学特論 Advanced Theory of Urban Geography	講義	2						本年度休講
都市地理学演習 Seminar on Urban Geography	演習	2						本年度休講
国際協力特論 Advanced Theory of International Cooperation	講義	2		秋		教授	岡本郁子 Ikuko Okamoto	
国際協力演習 Seminar on International Cooperation	演習	2	春		春	教授	岡本郁子 Ikuko Okamoto	
社会システム特論 Advanced Theory of Social System	講義	2	秋			教授	池田誠 Makoto Ikeda	
社会システム演習 Seminar on Social System	演習	2		春	春土	教授	池田誠 Makoto Ikeda	
地域社会学特論 Advanced Theory of Urban and Regional sociology	講義	2	秋			教授	高橋一男 Kazuo Takahashi	
地域社会学演習 Seminar on Urban and Regional sociology	演習	2		春	秋	教授	高橋一男 Kazuo Takahashi	
地域情報マネジメント特論 Advanced Theory of Regional Information Management	講義	2	春		休講	教授	中挟知延子 Chieko Nakabasami	
地域情報マネジメント演習 Seminar on Regional Information Management	演習	2		秋		教授	中挟知延子 Chieko Nakabasami	

授業科目・研究指導 Elective Subject/Required Subject	講義・演習の別	単位	開講状態			職名	担当教員	備考
			昼間		夜間			
			日本語	Eng.	日本語			
地球環境特論 Advanced Theory of Global Environmental Management	講義	2						本年度休講
地球環境演習 Seminar on Global Environmental Management	演習	2						本年度休講
開発人類学特論 Advanced Theory of Development Anthropology	講義	2			秋	准教授	杉田映理 Elli Sugita	
開発人類学演習 Seminar on Development Anthropology	演習	2	春	秋		准教授	杉田映理 Elli Sugita	
都市開発特論 Advanced Theory of Urban Development	講義	2	秋		秋	教授	安相景 An Sang Kyung	
都市開発演習 Seminar on Urban Development	演習	2		春		教授	安相景 An Sang Kyung	
公共経営特論 Advanced Theory of Public Management	講義	2	春			教授	稲生信男 Nobuo Inou	
公共経営演習 Seminar on Public Management	演習	2		休講	秋	教授	稲生信男 Nobuo Inou	
ジェンダー特論 Advanced Theory of Gender and Migration	講義	2		秋		教授	マリア ロザリオ バレスカス Maria Rosario Piquero Ballescas	
ジェンダー演習 Seminar on Gender and Migration	演習	2			春 Eng.	教授	マリア ロザリオ バレスカス Maria Rosario Piquero Ballescas	
社会保障・地域福祉特論 Advanced Theory of Social Policy	講義	2		秋	春	教授	藪長千乃 Chino Yabunaga	
社会保障・地域福祉演習 Seminar on Social Policy	演習	2	春			教授	藪長千乃 Chino Yabunaga	
国際経済特論 Advanced Theory of International Economics and Project Evaluation	講義	2						本年度休講
国際経済演習 Seminar on International Economics and Project Evaluation	演習	2						本年度休講
災害・危機管理特論 Advanced Theory of Disaster and Crisis Management	講義	2		春	春	教授	松丸亮 Ryo Matsumaru	
災害・危機管理演習 Seminar on Disaster and Crisis Management	演習	2	秋			教授	松丸亮 Ryo Matsumaru	
国際政治学特論 Advanced Theory of International Politics	講義	2		秋		准教授	中島晶子 Akiko Nakajima	
国際政治学演習 Seminar on International Politics	演習	2	春		春	准教授	中島晶子 Akiko Nakajima	
国際地域学研究事例演習 Seminar on Thesis of International Development	演習	2			春 秋	教授	安相景 An Sang Kyung	
国際地域学特論 Advanced Theory of Practical Regional Development	講義	2					(指導教員) 荒巻、安、池田、稲生、岡村、岡本、 北脇、坂元、志摩、杉田、高橋、中挾、 バレスカス、藤井、松丸、藪長	
国際地域学演習 I～IV Seminar on Practical Regional Development	演習	2					(指導教員) 荒巻、安、池田、稲生、岡村、岡本、 北脇、坂元、志摩、杉田、高橋、中挾、 バレスカス、藤井、松丸、藪長	
国際地域学研究指導 Special Lecture on Regional Development Studies		2					(指導教員) 荒巻、安、池田、稲生、岡村、岡本、 北脇、坂元、志摩、杉田、高橋、中挾、 バレスカス、藤井、松丸、藪長	

### 履修方法

- 履修する授業科目は、指導教員の指示を受けて決定すること。
- 国際地域学研究指導を担当する教員の「研究指導」を各セメスタごとに履修登録しなければならない。修得した単位は修了要件の単位に充当する。
- 「演習」または「講義」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位取得することができるが、この場合、**修了単位として認められるのは、最初に修得した成績および単位のみとする。**したがって、2度目以降の履修・聴講は、「自由聴講」扱いとなり、成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。
- 本表に掲げた科目の他、指導教員が研究指導上必要と認めるときは、本学の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を10単位まで単位修得することができる（同一名称の科目は1回のみ単位修得できる）。修得した単位は修了要件の単位に充当する。
- 国際地域学特論および国際地域学演習 I～IVは JICA ボランティア派遣者のみ履修することができる。

### 国際地域学専攻 博士前期課程 英語による授業について

表中「Eng.」欄に開講学期が記されている科目は英語での授業を行います。

## 博士後期課程

授業科目・研究指導 Elective Subject/Required Subject	講義・演習の別	単位	開講状態			担当教員	備考
			昼間		夜間		
			日本語	Eng.	日本語		
国際地域学特殊研究Ⅰ(1セメ) Specialized research on Regional Development Studies I	演習	2				荒卷、安、稲生、岡村、北脇、 坂元、志摩、杉田、高橋、中挾、 バレスカス、藤井、松丸	
国際地域学特殊研究Ⅱ(2セメ)	演習	2					
国際地域学特殊研究Ⅲ(3セメ)	演習	2					
国際地域学特殊研究Ⅳ(4セメ)	演習	2					
国際地域学特殊研究Ⅴ(5セメ)	演習	2					
国際地域学特殊研究Ⅵ(6セメ)	演習	2					
国際地域学研究指導 Special Lecture on Regional Development Studies						(指導教員) 荒卷、安、稲生、岡村、北脇、 坂元、志摩、高橋、中挾、バレスカス、 藤井、松丸	

## 履修方法

### 博士後期課程

1. 原則として「国際地域学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」は、Ⅰ・Ⅱ…の順に各セメスタ履修すること。
2. 国際地域学研究指導を担当する教員の「研究指導」を各セメスタごとに履修登録しなければならない。
3. 本表に掲げた科目の他、指導教員が研究指導上必要と認めるときは、本学の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を10単位まで単位修得することができる（同一名称の科目は1回のみ単位修得できる）。

## 国際地域学専攻博士前期課程における特定課題研究論文の提出について

本専攻では、修士学位論文に代えて特定課題研究論文の提出を認めています。特定課題論文とは、特定の課題について実践的に調査・研究した論文をいいます。特定課題研究論文での提出を希望するものは、提出要件を確認のうえ次のとおり作成すること。

- 1、20,000字以上で作成すること。
- 2、特定課題論文の体裁は修士学位論文に準じる。
- 3、提出スケジュールは修士学位論文提出時期と同じ時期とする

また、提出要件を次のとおり定めることとする。

〈提出要件〉

- ① 学会における口頭発表論文が1本以上あること
- ② 専門誌などにおける論文発表が1本以上あること
- ③ 授業科目等について32単位以上取得していること

※①②については本人の貢献箇所について提出時に明らかにすること。

なお、本件の対象者は国際地域学研究科に所属する社会人学生とする。

特定課題研究論文を選択する学生は、最終セメスタ時に指導教員の了承を得た上で申告すること。

## 国際地域学研究科国際地域学専攻 修士論文の提出、作成要領について

### 1. 修士論文の作成要領

- ・ A4判、ワープロ書き、横書き、片面印刷
- ・ 表紙について
  - 論文題目の字の大きさは、16ポイント以上、それ以外は14ポイント。
  - 内表紙にも、同様の記載をする。
- ・ 本文
  - 文字：10.5ポイント
  - 字数・行数：40字、35行
  - 余白：上下、左右ともに3.0cm
  - ページ：下段、中央
- 章題、図表の説明文等に関しては、適宜フォントを変更することは可能。
- ・ 目次、参考文献（巻末）、謝辞をつける。
- ・ 英文で提出する場合は、別紙を参考にして指導教員の指示に従い執筆すること。
- ・ 上記の形式と異なる場合には、指導教員と相談し、了承を得ること。

### 2. 修士論文要旨の公開について

修士論文要旨は、PDFファイル化して大学院のホームページで公開する。

### 3. 修士論文要旨の作成要領（見本参照）

- ・ A4判、ワープロ書き、横書き、4ページ
- ・ 「国際地域学専攻修士論文」、提出年月（20〇〇年〇月）、指導教員名
- ・ 論文題目：14ポイント（英文題目も）
- ・ 所属（東洋大学大学院国際地域学研究科国際地域学専攻博士前期課程）
- ・ 学籍番号→10.5ポイント、氏名（英文名も）→12ポイント
- ・ 英文要旨（200語程度）、英文キーワード、日本語キーワード（5個程度）
  - キーワードは、文献検索に利用されることを考慮し、論文の内容を的確に示す語を選ぶ。
- ・ 本文
  - 文字：10.5ポイント
  - 字数・行数：40字、40行
  - 余白：上下、左右ともに3.0cm
  - ページ：下段の中央

- ・ 図や表や写真の掲載も可能
- ・ 要旨の4ページ目（最終ページ）は、最後の25行を空白にする。この空白部分に主査・副査が審査報告を記入する。

【修士論文の要旨の見本】

国際地域学専攻修士論文要旨（20〇〇年〇月提出） 指導教員：東洋太郎教授

持続可能な環境都市に向けての一考察  
 ーカーボンマイナス東京10年プロジェクトー

3810140099

白 山 花 子

A Study towards Sustainable Eco-City :  
 10-Year Project for a Carbon-Minus Tokyo

SHIROYAMA Hanako

Tokyo's basic posture on climate change in the next decade ……

(英文要旨、200語程度) ……

(略)

Key words : sustainable city, eco-city, CO2 reduction, Tokyo, carbon-minus

キーワード：持続可能都市、環境都市、CO2削減、東京、カーボンマイナス

〈論文構成〉

I. 序論

1. 従来の研究と問題点

2. 本研究の目的と方法

II. カーボンマイナスプロジェクト

(略)

IV. 結論

〈要約〉

本研究は……

(略)

(要旨)

【審査および最終試験の報告】

本研究は、東京都のカーボンマイナスプロジェクトを事例として、持続可能な環境都市について考察し、……

(略)

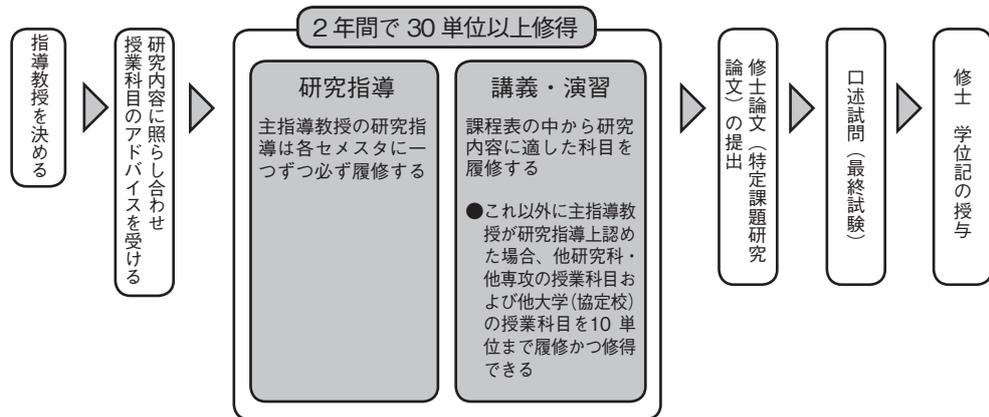
……によって、本研究は修士論文として価値あるものと認める。

(主査：東洋太郎、副査：文京次郎)

以上

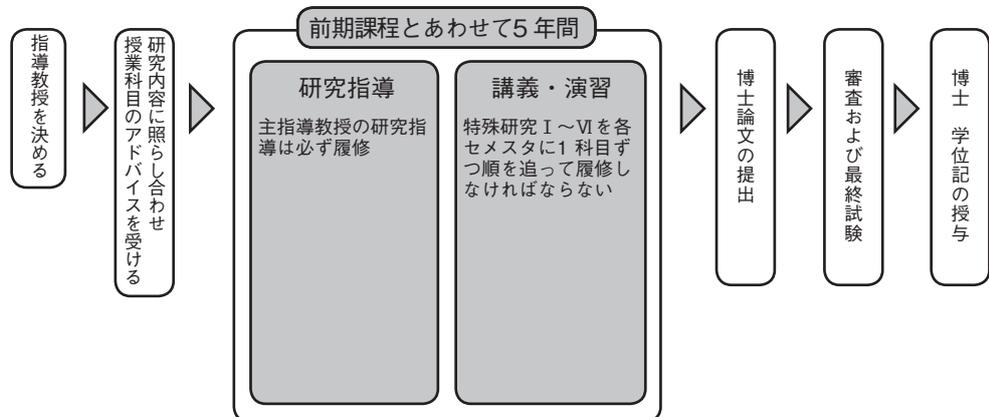
# 国際観光学専攻

## 前期課程 履修の流れ



特定課題研究論文を修士学位論文に代える場合は2年間で32単位以上修得

## 後期課程 履修の流れ



## 国際観光学専攻

### 博士前期課程

授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	開講状態		職名	担当教員	備考
			昼	夜			
観光交通特論 Advanced Theory of Tourism Transportation	講義	2		秋	准教授	島川 崇 Takashi Shimakawa	
観光交通演習 Seminar on Tourism Transportation	演習	2		春土	准教授	島川 崇 Takashi Shimakawa	
観光交流特論 Advanced Theory of Tourism Exchange	講義	2	春		教授	梁 春香 Chun Xiang Liang	
観光交流演習 Seminar on Tourism Exchange	演習	2	秋		教授	梁 春香 Chun Xiang Liang	
国際交通経営特論 Advanced Theory of International Transport Management	講義	2		秋	教授	堀 雅通 Masamichi Hori	
国際交通経営演習 Seminar on International Transport Management	演習	2	春		教授	堀 雅通 Masamichi Hori	
旅行産業特論 Advanced Theory of Travel Industry	講義	2	秋		教授	松園 俊志 Shunshi Matsuzono	
旅行産業演習 Seminar on Travel Industry	演習	2	春		教授	松園 俊志 Shunshi Matsuzono	
観光・ホテル事業特論 Advanced Theory of Hotel and Tourism Industry	講義	2					本年度休講
観光・ホテル事業演習 Seminar on Hotel and Tourism Industry	演習	2					本年度休講
観光資源特論 Advanced Theory of Tourism Resource	講義	2		春	教授	東海林 克彦 Katsuhiko Shoji	
観光資源演習 Seminar on Tourism Resource	演習	2	秋		教授	東海林 克彦 Katsuhiko Shoji	
都市観光システム特論 Advanced Theory of Urban Tourism System	講義	2		春	教授	古屋 秀樹 Hideki Furuya	
都市観光システム演習 Seminar on Urban Tourism System	演習	2		秋	教授	古屋 秀樹 Hideki Furuya	
環境保護特論 Advanced Theory of Environmental Conservation	講義	2	秋		准教授	藤 稿 亜矢子 Ayako Toko	
環境保護演習 Seminar on Environmental Conservation	演習	2		春	准教授	藤 稿 亜矢子 Ayako Toko	
地域経営特論 Advanced Theory of Regional Administration	講義	2		春	教授	和田 尚久 Naohisa Wada	
地域経営演習 Seminar on Regional Administration	演習	2		秋	教授	和田 尚久 Naohisa Wada	
ホスピタリティ・マネジメント特論 Advanced Theory of Hospitality Management	講義	2		春	准教授	徳江 順一郎 Jun-ichiro Tokue	
ホスピタリティ・マネジメント演習 Seminar on Hospitality Management	演習	2		秋	准教授	徳江 順一郎 Jun-ichiro Tokue	
サービス産業特論 Advanced Theory of Service Industry Management	講義	2		春	教授	飯 嶋 好彦 Yoshihiko Iijima	
サービス産業演習 Seminar on Service Industry Management	演習	2		秋	教授	飯 嶋 好彦 Yoshihiko Iijima	
観光政策特論 Advanced Theory of Tourism Policy and Planning	講義	2	秋		准教授	矢ヶ崎 紀子 Noriko Yagasaki	
観光政策演習 Seminar on Tourism Policy and Planning	演習	2	春		准教授	矢ヶ崎 紀子 Noriko Yagasaki	
観光まちづくり特論 Advanced Theory of Regional Tourism Development	講義	2		春	客員教授	丁 野 朗 Akira Chono	
観光まちづくり演習 Seminar on Regional Tourism Development	演習	2		秋	客員教授	丁 野 朗 Akira Chono	
国際観光協力特論 Advanced Theory of International Tourism Cooperation	講義	2	秋	Eng.	非常勤講師	薄 木 三生 Mitsuo Usuki	
国際観光協力演習 Seminar on International Tourism Cooperation	演習	2	春	Eng.	非常勤講師	薄 木 三生 Mitsuo Usuki	

授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	開講状態		職名	担当教員	備考
			昼	夜			
観光文化特論 Advanced Theory of Tourism and Culture	講義	2		秋 Eng.	非常勤講師	ポグゲンドルフ ローレンツ Poggendorf Lorenz	
観光文化演習 Seminar on Tourism and Culture	演習	2		春 Eng.	非常勤講師	ポグゲンドルフ ローレンツ Poggendorf Lorenz	
国際観光学研究事例演習 Seminar on Thesis of International Tourism	演習	2	春秋		教授	梁 春 香 Chun Xiang Liang	
国際観光応用学特論 Advanced Theory of Practical International Tourism	講義	2			飯嶋、徳江	(以下の教員の講義・演習は休講) 島川、東海林、藤稿、古屋、堀、 松園、梁、和田	
国際観光応用学演習Ⅰ～Ⅳ Seminar on Practical International Tourism	演習	2					
国際観光学研究指導 Special Lecture for International Tourism Studies		2			(指導教員) 飯嶋、島川、東海林、藤稿、徳江、古屋、堀、松園、 梁、和田		

### 履修方法

- 履修する授業科目は、指導教員の指示を受けて決定すること。
- 国際観光学研究指導を担当する教員の「研究指導」を各セメスタごとに履修登録しなければならない。修得した単位は修了要件の単位に充当する。
- 「演習」または「講義」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができるが、この場合、修了単位として認められるのは、最初に修得した成績および単位のみとする。したがって、2度目以降の履修・聴講は、「自由聴講」扱いとなり、成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。
- 本表に掲げた科目の他、指導教員が研究指導上必要と認めるときは、本学の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を10単位まで単位修得することができる（同一名称の科目は1回のみ単位修得できる）。修得した単位は修了要件の単位に充当する。
- 国際観光応用学特論および国際観光応用学演習Ⅰ～ⅣはJICA ボランティア派遣者のみ履修することができます。

### 国際観光学専攻 博士前期課程 英語による授業について

表中に開講学期および「Eng.」が記されている科目は英語での授業を行います。

## 博士後期課程

授業科目・研究指導	講義・演習の別	単位	開講状態		担当教員	備考
			昼	夜		
国際観光学特殊研究Ⅰ(1セメ) Specialized Research on International Tourism Studies	演習	2			飯嶋、島川、東海林、藤稿、徳江、古屋、堀、松園、梁、和田	
国際観光学特殊研究Ⅱ(2セメ)	演習	2				
国際観光学特殊研究Ⅲ(3セメ)	演習	2				
国際観光学特殊研究Ⅳ(4セメ)	演習	2				
国際観光学特殊研究Ⅴ(5セメ)	演習	2				
国際観光学特殊研究Ⅵ(6セメ)	演習	2				
国際観光学研究指導 Special Lecture for International Tourism Studies					(指導教員) 飯嶋、東海林、古屋、堀、梁、和田	

### 履修方法

1. 原則として「国際観光学特殊研究Ⅰ～Ⅵ」は、Ⅰ・Ⅱ…の順に各セメスタ履修すること。
2. 国際観光学研究指導を担当する教員の「研究指導」を各セメスタごとに履修登録しなければならない。
3. 本表に掲げた科目の他、指導教員が研究指導上必要と認めるときは、本学の他研究科・専攻の授業科目および他大学(協定校)の授業科目を10単位まで単位修得することができる(同一名称の科目は1回のみ単位修得できる)。

## 国際観光学専攻博士前期課程における特定課題研究論文の提出について

本専攻では、修士学位論文に代えて特定課題研究論文の提出を認めています。特定課題論文とは、特定の課題について実践的に調査・研究した論文をいいます。特定課題研究論文での提出を希望するものは、提出要件を確認のうえ次のとおり作成すること。

- 1、20,000 字以上で作成すること。
- 2、特定課題論文の体裁は修士学位論文に準じる。
- 3、提出スケジュールは修士学位論文提出時期と同じ時期とする

また、提出要件を次のとおり定めることとする。

〈提出要件〉

- ① 学会における口頭発表論文が1 本以上あること
- ② 専門誌などにおける論文発表が1 本以上あること
- ③ 授業科目等について32 単位以上取得していること

※①②については本人の貢献箇所について提出時に明らかにすること。

なお、本件の対象者は国際地域学研究科に所属する社会人学生とする。

特定課題研究論文を選択する学生は、最終セメスタ時に指導教員の了承を得た上で申告すること。

## 国際地域学研究科国際観光学専攻 修士論文作成要領等について

### 1. 修士論文の執筆要領

#### (1) 基本的事項

- ・修士論文は、日本語または英語を用い、A4 判用紙（縦）に横書きで印字する。また、執筆はパソコン、ワープロを使用しなければならない（感熱紙は使用しないこと）。
- ・論文題目は、学生と教員が相談して決定する。この題目に日本語を用いる場合、論文の記述はすべて日本語とする。また、論文題目に英語を用いる場合、論文の記述はすべて英語とする。
- ・論文本体は、極力白黒を基本として、無用にカラー出力を行わない。また、片面印刷とする。
- ・論文題目は、簡潔を旨とし、表題の末尾にピリオド等を付けないこと。
- ・論文題目の字の大きさは、16 ポイント以上、それ以外は14 ポイント。
- ・内表紙にも、同様の記載をする。

#### (2) 論文構成

- ・研究成果の内容により最も書きやすい構成とすればよいが、一般的には次のスタイルがあるので参考にすること。  
(1) 表紙、2) 要旨（論文本体にも付け加える。体裁は本文と同様とする）、3) 目次、4) 図表リスト、5) 序論、6) 本論、7) 結論、8) 参考文献、9) 謝辞、10) 付録
- ・修士論文（序論から、結論まで）にはページ番号を用紙中央下部に示すこと。
- ・目次は階層構造が容易に理解できるよう留意すること。

例 1 章 ○○○○○○○○○○○

1.1 △△△△△△△△

1.1.1 □□□□□□□□

- ・図表リストは、掲載ページとの対応表を示すものとする。
- ・付録は、論文内容を深く理解するために必要な情報、もしくは本文内では詳細すぎて記述できないが重要と考えられる情報について記載することが望ましい。

#### (3) 論文体裁

- ・論文本文の階層構造（章、節、項など）が分かるように記述することを心がける。
- ・マージンは上端 25mm、下端 30mm、左端 30mm、右端 20mm とし、日本語の場合、40 字 40 行程度、英文の場合ダブルスペース、28 行程度で印字する。文字は、10.5 ポイントを推奨する。
- ・章は、改頁とし、節の区切りは1 行あけとし、無駄な空白は作らない。
- ・図の番号ならびにタイトルは、図の下部に、表の場合は表上部に示す。また、凡例や軸の説明、数量の単位、方位や縮尺など必要な情報を適宜示し、分かりやすくすること。
- ・図及び表には、必ず通し番号とタイトルを付ける。

- ・ゴシック、ボールド、イタリック、斜体等、特殊な字体を用いて本文（地の分）を記述してはならない。（これらの文字は慣例に従い、数式又は学名などに限り用いることができる）
- ・章題、図表の説明文等に関しては、適宜フォントを変更することは可能である。
- ・数式はイタリックで記述すること。また、重要な数式には番号を打つこと。
- ・句読点については、論文中で統一したものをを用いること（例：「。、」もしくは「.,」など）
- ・引用する場合、その旨分かるように明記すること。
- ・原則的に4万字程度を目安とする。

(4) 引用文献について

- ・引用文献はすべて記載する。

文献引用方法は、1) 引用順に場号を付けるか、もしくは2) 第1著者の姓でアルファベット順にソートするか、いずれかの方法を取り、論文内では統一するものとする。

- 1) 引用順に番号を付け、その順番に引用文献欄に整理する。本文中では引用部分に、「××法<sup>29)</sup>」、「…知られている<sup>40)</sup>」、など上付番号を記入する。

文献欄の例

a) 雑誌論文

著者名：論文名、雑誌名、巻名、号名、ページ番号、出版年

b) 単行本

著者名：単行本名、出版社、出版都市、ページ番号、出版年

c) 博士、修士、卒業論文

著者名：論文名、大学学部名（専攻名）及び論文の種類、出版年

- 2) 引用文献は第1著者の姓でアルファベット順に文献欄に整理する。本文中では引用部分に、「……と示されている（著者姓、出版年）」と記入する。

文献（引用文献）欄の例

a) 雑誌論文

著者名（出版年）：論文名、雑誌名、巻名、号名、ページ番号

b) 単行本

著者名（出版年）：単行本名、出版社、出版都市、ページ番号

c) 博士、修士、卒業論文

著者名（出版年）：論文名、大学学部名（専攻名）及び論文の種類

※他の表記方法もある。論文内で統一することが重要である。

※ページ番号は、雑誌等全体からの引用の場合は、ページ数全部を、一部からの引用の場合は、該当部分のはじまりのページから終わりのページを示すものとする。

例：雑誌全体からの引用の場合

井手文雄：界面制御と複合材料の設計、東京、シグマ出版、1995、250p

McMillan, G.K.: pH Measurement and Control. 2nd ed. North Carolina, Instrument Society of America, 1994, 299p.

例：雑誌一部からの引用の場合

井手文雄：界面制御の技術、界面制御と複合材料の設計、東京、シグマ出版、1995、pp.12-43

Doets, K.: "5 Linear resolution", From Logic to Logic Programming, Cambridge, MIT Press, pp.93-120, 1994

※2) の方法で、同一年に複数の出版物がある場合、もしくは複数の引用部分がある場合、本文中出版年の後に、a、b、…などアルファベットを用いて、識別する対応方法が考えられる。

- 3) ホームページからの引用は、修正等により参照することが不可能な場合が存在するため、極力避けるものとする。しかしながらそれが回避の場合、下記形式により記入することが可能とする。

著者名 所属機関名（表記がある場合）：“文献名.” オンライン名：“文献のアドレス” 文献の日付（表記がある場合）、アクセスした日付

例 1) Dupis, Elizabeth (University of Texas Austin), "Take a Walk on the Wild Side." Internet: "http://www.lib.utexas.edu/Exibits/wired.html" Viewed October 13, 1997.

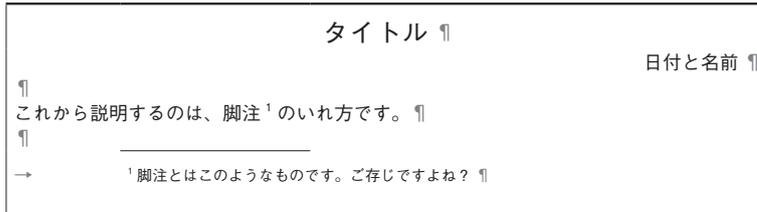
例 2) "Information Literacy Resources." Internet: "http://www.epnet.com/infolit.html" October 1997. Viewed October 27, 1997.

例3) 東洋大学大学院環境科学研究科:“環境科学研究科の特色”、インターネット:[http://www.envr.tsukuba.ac.jp/point\\_new.html](http://www.envr.tsukuba.ac.jp/point_new.html) (2000/09/07)

4) 年代の表記は、極力西暦で統一して記すことが望ましい。元号を示したい場合は西暦を示した上で括弧書きにする方法が考えられる。

(5) 脚注について

- ・脚注にする場合は、最下段に、本文との間に線を入れて記載する。
- ・脚注と引用文献の表記について留意すること。別々に区別する方法（脚注を入れた場所の右肩に脚注番号が付け、そのページの下に対応する番号を示した後、説明を加える）、もしくは同一と見なして各章末に一括してまとめるなどの方法がある。使用方法は論文内で統一すること。
- ・脚注をイタズラに多用しないこと。



- ・上記の形式と異なる場合には、指導教員と相談し、了承を得ること。

2. 修士論文要旨の公開について

修士論文要旨は、PDF ファイル化して大学院のホームページで公開する。

3. 修士論文要旨の執筆要領

- ・A4判、ワープロ書き、横書き、4ページとする。
- ・「国際観光学専攻修士論文」、提出年月日、指導教員名
- ・論文題目：14ポイント（英文題目も）
- ・所属（東洋大学大学院国際地域学研究科国際観光学専攻修士課程）
- ・学籍番号→10.5ポイント、氏名（英文名も）→12ポイント
- ・英文要旨（200語程度）、英文キーワード、日本語キーワード（5個程度）
- ・本文
  - 文字：10.5ポイント、字数・行数：概ね40字、40行、空白：上下、左右ともに3.0cm
  - ページ：下段、中央に掲載、図や表の掲載も可能とする。
- ・要旨の4ページ目（最終ページ）は、最後の25行を空白にする。この空白部分に主査・副査が審査報告を記入する。

【修士論文要旨の見本】

国際観光学専攻修士論文要旨（20〇〇年〇月提出） 指導教員：東洋太郎教授

ニュータウン開発と大学立地  
—群馬県板倉ニュータウンの事例—

3820140099

東 洋 一 郎

New Town Development and University Location :  
A Case Study of the Itakura New Town, Gunma

ITAKURA Izumi

The Itakura New Town is ……（英文要旨、200 語程度） ……（略）

Key words : new town, university, land use plan, Itakura, Gunma

キーワード：ニュータウン、大学、土地利用計画、板倉町、群馬県

〈要約〉

本研究は ……（略）

〈要項 4 頁目〉

（要旨）

-----  
-----

【審査および最終試験の報告】

本研究は、板倉ニュータウンを事例として、ニュータウン開発における大学の誘致 ……

（略）

……によって、本研究は修士論文として価値あるものと認める。

（主査：東洋太郎、副査：観光次郎）

以上